

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
 〒680-0846 鳥取市扇町21番地
 東教発 H26.6.1 №126
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

教科でつながる、小中の9年間 **鳥取市立北中学校**



北中学校区では、昨年度までの取組を継承し、本年度は「小中連携で取り組む授業改革ステップアップ事業」の指定を受け、小中連携の取組をさらに進めています。取組の柱である各教科の「押さえどころ表」を小中合同で作成・活用していく過程で、教職員が様々に語り合うことを通して、お互いの意識改革に、そして授業改善へとつなげています。

押さえどころ表【国語科】～つまずきや課題を元に

「押さえどころ表」とは

中学3年生の学習課題を明確にし、それを克服するために小1～中3の各学年で付きたい資質や能力を系統的に示したものです。

中学校3年生の課題 説明文を読み、筆者の論理の展開を捉え、自分の考えをわかりやすく表現することが難しい。

要因

- 文章の構成を活用して、自分の表現につなげていきにくい。
- 表現するための語彙数が乏しい。
- 観点をしぼる力が弱いので条件付きの作文をまとめることができない。

各学年で身につけるべき資質や能力

| 項目 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 中1 |
|-----|---|--------|--------|------------|---------|------------|-------|
| 高次文 | 「荷が「どうした」といふ内容の課題や、専門用語を順序よく読み取る順序などについて、 | 荷をつけて、 | 荷をつけて、 | 目的に応じて、内容の | 目的に応じて、 | 全体の構成を把握し、 | 中心的部分 |
| 説明文 | 「荷が「どうした」といふ内容の課題や、専門用語を順序よく読み取る順序などについて、 | 荷をつけて、 | 荷をつけて、 | 目的に応じて、内容の | 目的に応じて、 | 全体の構成を把握し、 | 中心的部分 |

各学年でどんな姿が求められるのかな？ (小中学校)

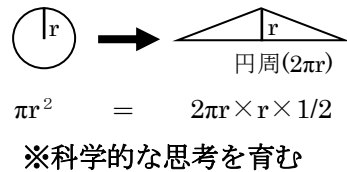
小学校ではこの力を付けておきたい！ (小学校)

複数教科を見渡していくことも大切だ (中学校)

【授業改善のポイント】

- 魅力のある課題提示
 - 必然性のある話合い
 - 体験的な学習活動
- (北中学校区共通)

【授業例】円の面積を三角形で考える



【生徒の感想】

「もっと知りたい」
 「友達の考えにすごいと思った」
 「みんなで学ぶと楽しい」
 (授業アンケートから)

押さえどころ表をきっかけとした先生方の意識改革が、授業改善の源となっています。各中学校区においても、教科でのつながりを意識した小中連携を工夫していきたいものです。



モデルを示す

局長 杉本 仁詞

家族や他の人のこと、社会全体のことを考えず、専ら個人の利害損得を優先させる言動によるトラブルや事件が多く起きています。社会全体のモラルの低下は、本来、誰もがもっている人としてよりよく生きていこうとする力を弱めさせているのではないかと思います。

安岡正篤は「徳性が人間の本質であり、知力も体力も徳性に統合されて意味をもつものである。」と言っています。知識基盤社会を支えるのは、徳性根底社会だと思います。教育において、徳性・道徳性を養うことは大変重要なことです。

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うことになっています。また、学習指導要領解説道徳編には、「教師の態度や行動は、子どもたちの道徳性の育成に大きな影響を与える」と示されています。それはつまり、教師の言動は、子どもたちが道徳や人としての生き方を学ぶ上でモデルになるということです。

教師には、「人間性」「社会性」「教育愛」「使命感」「専門性」など、求められるものは多いですが、「教師として成長するために真摯に求める姿」を子どもたちに示していきたいと思えます。人の成長へのエネルギーは、あの人のようになりたい、あの人に近づきたいという気持ちから湧いてくるものでもあり、多くの人を経験してきたことではないでしょうか。教師として「真摯に求める姿」は、子どもたちの道徳性や人としての生き方を涵養するという思いをもって教育に邁進したいものです。

「教育は感化なり」とも言われています。

学事コーナー

一学期の早いうちに研修を実施しましょう

体罰防止のためのハンドブック ～体罰のない学校づくりに向けて～

平成26年3月に「体罰防止のためのハンドブック～体罰のない学校づくりに向けて～」が、作成、配布されました。校長会連絡でもお願いしましたが、一学期の早いうち、遅くとも必ず7月までには時間を取っていただき、校内で研修を実施していただくようお願いします。

体罰は、学校教育法第十一条に明確に禁止されている行為であるにもかかわらず、未だに撲滅できていません。体罰による指導は、生徒や保護者、県民等からの、教職員や学校に対する信頼を失うことにつながります。ぜひ、校内研修を通して、自校から体罰を撲滅できるよう取り組んでください。

校内研修をしてみましょう（事例を紹介します）

1 体罰はなぜ禁止なのか、理解を深めましょう。（ハンドブックP.4～6）

- (1) 懲戒と体罰の違いについて
- (2) 体罰の禁止について規程している法規について
- (3) 体罰は、人権侵害？

2 体罰が与える様々な影響について話し合ってみましょう。（ハンドブックP.9）

- ①当該児童生徒への影響
- ②他の児童生徒への影響
- ③保護者・地域への影響
- ④学校運営への影響
- ⑤当該教職員への影響

3 具体的な事例を通じて、どのように対応すれば体罰をすることなく指導できたのか、小グループになって話し合ってみましょう。（ハンドブックP.12）

◆事例1「手悪さをやめようとしないう児童への指導において」（小学校）

授業の開始時、手悪さをして姿勢を正さなかった児童に対して、注意したが、その注意に対してその態度を改めるところか、逆に挑発するような態度を教諭に対して示した。これまでも、同様の注意・指導を何度も繰り返してきたこともあり、カッとなり思わず児童の頬を1回叩いた。

◆事例4「掃除の指導において」（中学校）

掃除の時間中、水道のホースを片付けずにふざけて遊んでいる生徒を見かけたため、片付けを含めてきちんと掃除をするように指導をした。それを聞いた生徒は、その態度を改めるところか、反抗的な態度をとり、教諭に対して暴言を吐いてきたことからカッとなり、厳しく指導するとともに思わず生徒の頭を1回叩いた。



話し合いの視点



- 教員の「思わず児童（生徒）の頬（頭）を1回叩いた」という行動をどう思いますか。
- この教員のこれまでの指導について、どう思いますか。
- この教員は、この児童（生徒）をどのような児童（生徒）としてとらえていたのでしょうか。
- この児童（生徒）は、どのような特性をもっており、これまでどのような指導を教員から受けてきたのでしょうか。
- この児童（生徒）にはどのような指導が必要だったのでしょうか。
- このようなことを未然に防止するために、周りの教職員にできることは何でしょうか。

ハンドブックは31ページあり、内容も盛りだくさんなので、数回に分けて研修することも考えられます。また、P.29～30にある体罰チェックシートを活用し、ふり返りをしていただくなど、紹介した事例にとらわれず、自校の実態に合った内容を実施してください。

信頼される教職員を目指して

～過去の事例を教訓に～

平成26年3月には、「信頼される教職員を目指して～過去の事例を教訓に～」も作成、配布されています。この冊子は、次の3つのことを、教職員の皆さんに伝えるために作成されました。

- 1 教職員による不祥事が相次いでいる現状を知る
- 2 過去の不祥事を振り返り、教訓とする
- 3 これまでの不祥事防止対策を再度確認し、不祥事再発防止を心に誓う

この冊子も校内研修でぜひご活用ください。



社会教育 コーナー



参加型保護者会で、 保護者と双方向の関係づくりを

学級担任と保護者、保護者同士の連携を深めるきっかけとするのが「学年・学級懇談会」です。今年度の局主催ワークショップでの演習「参加型保護者会」は、各校の懇談会の開催に先駆けて実施しました。ワークショップの様子と、演習に参加された先生の学校での実践を紹介します。

当日のワークショップの内容

「参加型保護者会」とは、あるテーマについて、和やかな雰囲気の中かで参加体験型の手法を用いて、誰もが考えや意見を出せるような会です。保護者が課題をもち、主体的に参加することが期待され、学校での教育活動に参画する意識が醸成されていきます。学校も保護者の願いや考えを把握しやすくなります。会の基本的な流れは、「導入（アイスブレイク）」→「展開（テーマに沿った話し合い）」→「まとめ（ふり返り）」です。

演習のテーマ：こんな子どもに育てほしい

- 1 進行役（担任）の自己紹介、自己開示、ルールとマナーの確認
- 2 アイスブレイクとグループづくり（バースデライン、インパルス）
- 3 自己紹介（子どもの頃、好きだったアニメ）
- 4 保護者の立場で「こんな子どもに育てほしい」ということを付箋に書き出す
- 5 一人ずつ思いを語りながら、書き出した付箋を出し合い、類型化して9つにまとめる
- 6 グループで話し合いながら、類型化した項目をダイヤモンドランキングで並べる

※ダイヤモンドランキングの詳細は、「元気いっぱい 園・学校づくりのポイント集」（家庭・地域編）に掲載しています。HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/47706.htm>

- 7 各グループの代表ができあがったランキングについて、話し合いの経過を交えながら説明する
- 8 進行役のまとめ（学級担任、保護者の立場で参加型のよさを伝える）

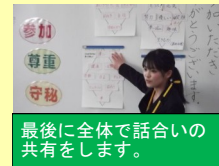
演習のひとコマ



アイスブレイクで緊張感をほぐします。



リラックスした雰囲気で話し合いが進みます。



最後に全体で話し合いの共有をします。

ワークショップ参加者の学校での実践

自己紹介

子どもの頃、好きだったアニメを紹介し合う。

好きなアイドルやマンガなどに話題が広がり、雰囲気が和んだ。

演習

「こんな子どもに育てほしい」ことを付箋に3つだけ書く。担任も加わり、付箋の言葉をもとに参加者同士で語り合う。

担任が思いを一方向的に語るという流れではなく、保護者と思いを語り合えたことで、「育てほしい子どもの姿や思いは同じなんだ」ということを確かめることができた。

期待される効果

・お互いの理解が進み、話しやすくなる。



・思いを共有することで、信頼関係が生まれ、何か問題が発生した場合にも、解決に向けた協力体制を築くことができる。

核家族化、情報化等の中、意識しないと人と人とのつながりが薄くなりがちです。そんなときに、参加型の手法が有効です。担任と保護者が同じ話題で笑い合ったり、がんばりをほめ合ったりすることで両者の関係が良好になり、深まります。今からでも遅くありません。参加型の手法を取り入れて、学校と家庭の双方向の関係が構築できるようにしましょう。